

**< 研究主題 >**

自ら学ぶ力を育てるための学習指導のあり方  
～ 算数科の学習を通して～

**< 主題設定の理由 >**

本校は全校児童 16 名の完全複式の小規模校である。そこで、2 年前より、複式の授業となる国語や算数に焦点をあて、研究を進めてきた。その結果、学習の流れがパターン化されるとともに、学習リーダーが生まれ、間接指導時に児童が学習を進める姿も見られるようになった。昨年度は教科を算数に絞り研究を進めた。一人一人の反応を予想しながら教材や教具を工夫することで、どの子も課題解決に向かって一生懸命取り組む姿が見られた。また、児童が自分の考えを持つことができたことから、間接指導時にも意見の交流ができるようになってきた。しかし、個人差が大きく、個に応じて十分力を伸ばすに至らなかった。また、間接指導時に教師の指示を待つ姿も見受けられた。

そこで、本年度は、残された課題を克服し、児童が課題解決に向けて意欲的に取り組む中で、「分かった。」「できた。」という充実感が味わえる授業を目指していきたい。

**< 願う児童の姿 >**

- ・ 算数の学習に興味を持ち、進んで学ぼうとする子
- ・ 既習事項を使って、筋道立てて課題を解決しようとする子
- ・ 基礎的・基本的内容を習得し、正しく計算できる子

**< 研究の仮説 >**

ひとりひとりの実態をつかみ、意図的・計画的に個に応じた指導や助言をしたり、教材・教具を工夫したりすることで児童は意欲的に課題を解決しようとするだろう。課題解決の見通しが持てるような工夫をし、学習リーダーを育てていけば、児童は間接指導時にも自分達の力で学習を進めることができるだろう。

**< 主な研究内容 >**

一人一人を伸ばす意図的、計画的指導

- ・ 実態把握と生かし方
- ・ 個に応じた指導の工夫

自ら課題解決を進める学習のあり方

- ・ 一人学習とノート指導
- ・ 仲間学習と学習リーダーの育成